



縄文時代じょうもんじだいの人々は、どんな服装ふくそうをしていたの



植物のせんいやけものの皮で衣服をつくり、さまざまなアクセサリーを身につけていたらしいよ。

縄文人じょうもんじんの衣服は、よくわからない

縄文人が着ていた衣服については、はっきりとはわかっていません。当時の衣服は、ほとんど残っていないし、文字で書かれた記録も、まったくないからです。

けものの皮や、植物のせんいを編んだものを着たらしい

日本は、降水量こうすいりょうが多く、年間の気温の変化が大きい土地です。そのため、冬はけものの皮を着ていたとしても、ほかの季節には、別の衣服が必要だったことでしょう。縄文時代には、植物のせんいを編んだ、編布あみぎんという布があったことが、遺跡いせきから出てきたものや、土器に残された布のあとによって、わかっています。今の時代の布とくらべると、かなり目のあらいものですが、縄文人は、このような布を衣服にしていた、と考えられています。

さまざまなアクセサリーでおしゃれをした

縄文人は、おしゃれだったようで、当時の遺跡からは、さまざまなアクセサリーが出てきます。石の玉や貝がらをつなげたらしいネックレス、きれいな石の玉のブローチ、土で形づくった耳かざり、しかの角でできたこしかざりやヘアピン、貝うでわでできた腕輪うでわなどがあります。お祭りなどのときは、これらのアクセサリーで身をかざった、おしゃれな人々が集まったことでしょう。また、土偶どくわの顔のもようから、縄文人は、赤や白の顔料を、顔にぬっていたのではないかと、とも考えられています。

弥生時代に、目のつまった織物がつくられるようになって、編布はすたれたそうよ。

